

03-4 長期入院・隔離室収容されていた知的障害を合併する統合失調症事例の作業療法

○大島 諒子(OT)

医療法人達磨会 東加古川病院

Key word : 精神障害, 知的障害, 長期入院

【はじめに】今回、長期入院の上3年以上病棟外に出る機会のなかった知的障害を伴う統合失調症事例に対し、適応的に過ごせる生活範囲の拡大を目的に作業療法(以下、OT)を導入した。OT室で落ち着けなかった事例に良好な変化が認められたので報告する。なお事例に発表の同意を得ている。

【事例紹介】30代前半女性。幼稚園頃知的遅れを認め12歳時行動異常により統合失調症と診断され1年余入院した。高校以降幻覚により警察保護にて入退院を繰り返し、社会生活の期間は短かった。5年以上隔離処遇の後、開放時間を徐々に延長し当院入院後3年で隔離解除され、適応的に過ごせる生活範囲の拡大を目的にOT開始した。抗精神病薬は総CP換算量1,260mg服用で期間中変化なかった。

【OT評価】IQ35(療育手帳A)、セルフケアは全て監視・介助水準。精神科リハビリテーション行動尺度(以下、Rehab)：逸脱行動2点(失禁が週2回以上)、全般的行動62点(中程度の困難群)であった。OT室の活動では、落ち着きのなさや時間を守れないといった不適応な行動があった。

OT室での適応的行動を目標に、短期目標を「OT中スケジュールに沿って行動する」とし、プログラムは週2回、作業は事例の興味のある計算や脳トレプリント、色塗りとした。

【OT経過】

前期2カ月：周囲の刺激にすぐ反応し、落ち着けない時期

事例は計算や脳トレプリント、色塗りを手当たり次第に行い、途中で別のプリントを始めたり、他患らの会話に割り込み「あれもこれもしたくて混乱」していた。短期目標は未達成。集中して作業ができる環境調整が必要と考え、目標を「一つの作業に集中して取り組む」に変更し、更に課題達成時に事例が好むシールを得るという報酬を設けた。

後期4カ月：集中して作業に取り組むようになった時期

環境調整として、プリントの自己選択を止め、作業療法士が事例の好みや能力に合ったプリントをセット

し、解き終え修正まで完了したら次の分に進むよう変更した。完了時にはシールを貼り、継続して取り組めたこと、エラーに対し根気強く修正したこと等を称賛した。期間中は欠席なくOTに参加し、作業を継続した。

【結果】途中で別のプリントを始めたり会話に割り込むことが減り、一つの作業に集中できるようになった。Rehab逸脱行動0点(失禁が消失)、全般的行動57点(「病棟外交流」の点数が増加)であった。

【考察】今回、中等度知的障害を合併した統合失調症の事例に対し、OT室での適応的行動を目標としたOTを実施した。

前期では事例の好みを優先した為、刺激を受けやすく落ち着けない状態だった。環境調整として作業提供方法を見直し、強化子を加えた結果、後期では集中して作業に取り組めるようになった。知的機能の中には、自己制御や行動の自己管理が含まれている。事例は「あれもこれもしたい」という欲求を制御して行動を計画・管理することが困難であった。つまり自身の能力に合う内容・量のプリントを選択することは中等度知的障害の事例にとって難易度が高く、混乱を招き、適応的行動ができなかったと推察される。作業を好みや能力に合わせて段階付けたものに修正し、継続的な取り組みに繋がるよう強化子を設けたことで混乱は軽減され、作業に集中できるようになったと考えられる。前期で事例の知的水準に対する適切な計画が不十分であったことは反省点であるが、事例の強い興味対象であるシールを強化子にできたのは、行動観察の成果と考える。

Rehab逸脱行動が改善した要因は不明であるが、全般的行動の改善は、継続して病棟外OTに参加できたことによる。事例のOTへのモチベーションとOT参加を習慣化できたことは事例の強みであり、今後の取り組みに生かしたい。